

令和7年度 第3回 長野市農業振興審議会 議事録（概要）

開催日時 令和8年2月12日（木）午前10時から午後11時40分まで

開催場所 長野市役所第一庁舎7階 第一・第二委員会室

出席者 委員9名、事務局（市職員）15名

- 次 第
- 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 諮問
 - 4 議事
(1) 第三期長野市農業振興アクションプランの策定について
 - 5 その他
 - 6 閉会

【議事（概要）】

議事（1） 長野市農業振興アクションプランの実施状況について

資料1、2に基づき事務局から説明

<質議>

（委員）

質問が二つ。一つ目は、スライド4枚目の地域の中心経営体が、全国的には減っている中で、長野市は大きく目標を達成して（増えて）いる。この増え方が第三期アクションプランに及ぼす影響は大きいと思う。増えている（農業の）経営体の方々が、より入りやすいアクションプランにしたほうが良いと考えるが、具体的にどういった経営体の方が増えているのか、わかればご教示いただきたい。

（事務局）

個別の（増えている農業の）経営体の状況については把握できていない。ただ、（多様な担い手が）農地を借り入れて経営を拡大していくことになるので、地域においては、中心的な担い手となっている状況だと思う。

（委員）

つまり個人で、多くの農地を借りて、運営されている方が増えてきたということでしょうか。

（事務局）

先ほどの農林業センサスの資料の中にもあったが、農地を大規模化しているという状況。

（委員）

わかりました。

この第三次アクションプランでもそうした方々に対するサポートが手厚くなっていると考えると良いか。

(事務局)

第三期については、これから委員の皆様とご相談しながら、具体的に計画を練っていくこととなるが、地域計画の中でも（各地域において）農地を担っていく方々を定めており、そうした方々に、しっかりと手当てしていくような観点で対応していきたいと考えている。

(委員)

もう1点。

「果樹の振興」（の小項目）が統合されて、りんご、もも、ぶどうとなった。もう一つ、特出しということでヘーゼルナッツが（小項目として）あるが、これも統合してはどうかか。

また、そのほかの果樹をやられている方もいる中で、あえて（りんご、もも、ぶどう、ヘーゼルナッツの）4つが気になったので、その辺りを教えてほしい。

(事務局)

委員のご意見のとおり、果樹について、ひとまとめする案を検討することは可能。ただ、市としては、令和6年度から、ヘーゼルナッツの産地化について、市長を先頭に取り組みを始めているので、今後の5年間（の計画）にあたっては、ヘーゼルナッツを特出ししていきたいと考えたところ。

(委員)

他の果樹についてはどうかか。

(事務局)

他の果樹については、今回まとめた（りんご、もも、ぶどうの）果樹振興の中で取組について考えていきたい。

(委員)

ありがとうございます。

杏などを作っている方もいると思うので、そうした方にもご配慮いただきたい。

(委員)

今の分類で、（長野市の）果樹の中で重要な、りんご、ぶどう、ももを個別に出して、それぞれどう（いう状況）なのか、という分析は毎年すべきではないか。少しおおざっぱな感じがする。長野のりんご、一番柱になっているぶどう、そしてもも。その他はまとめて良いが、長野市の核となっているこれらの果樹はフォローしたほうが良い。

(委員)

的外れになるかもしれないが、大規模にやっているのは、ほとんどが水田。果樹は家族経営で、3町歩から5町歩が限界の中でやっており、なおかつ中山間地においては、農地がなかなかまとまらないという課題もある。そこをどうするのか、具体策を示して、策定時に入れていただきたい。

(委員)

確かに同感。

先ほどの(説明のあった)センサスは全国(の傾向)。長野市は全然違うと思う。どんどん経営規模が増えているのは、水田地帯の話であって、とりわけ長野市、中山間地を含めた果樹地帯については大きな変化がない。大きな基盤整備事業でもやらない限り、規模拡大はありえない。そうしたことを前提に、長野市の農業センサスの結果を改めてこの会議で説明いただいて、じゃあどうするかという話をしなければならないと思う。

(委員)

果樹関係しかり、水田も農産物もそうだが、ここにきて高温・干ばつという状況は大きなネック。例えば、りんごを増やそうという中で、平場で増やしていくのは難点が多い。その分、中山間地、標高の高いところへ移行していく。将来的にということになると思うが、中山間地での一つの起爆剤というか、そういうものに取り組む、或いはそういう農業者を育てていくというのも一つの手になっていくと考える。

これからも果樹産地としての長野市を守っていくということを考えれば、(そうした取り組みも)非常に有効な手段になってくると思うので、今後のアクションプラン作成の中に、是非とも入れて欲しいと思う。

(委員)

私は長野市の総合計画の委員もやっている。

そこで、魅力ある長野市、来なくなる長野市になるためにどういうようなところにしたらよいかという議論をしている。長野市は都会から見れば、憧れの地。観光も良いし、農産物も新鮮なものがあるし、おいしい果物もある。ところが、一步現場に入ると、本当に3年後、5年後にこれが(今の状態が)維持できるのかというのが、長野市を左右する大きな課題だと思っている。そういう面からいうと、長野市全体として、農業、とりわけ果樹の生き残りをどうしたらよいかということのをこれまで以上に真剣に考え、効果のある施策を入れていかないと。長野市全体の存亡にもかかわるのではないかと考えている。そんな観点から、今後1年かけて議論していくわけだが、ぜひ、皆さんもそういった観点も含めて、ご議論いただければありがたい。

委員の皆様には、今日は渡された資料で、今日すぐに意見といっても、大変だと思うので、それぞれの委員の皆様方ご自身でも資料を見ていただいて、もし(施策が)半ばだとか、また、地域の中で組織があるのであれば、組織の中でも、この内容をご議論いただきながら、(審議会に)持ち寄って議論していければよいと思う。

以上